

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
29

2013 文月・葉月



開祖夫人 宗恵美子氏 顕彰特集

「与える喜び」を貫徹した人生

「与える喜び」を貫徹した人生

2013(平成25)年4月8日、少林寺拳法グループは大きな悲しみに包まれた。開祖宗道臣そうどうしんの妻、恵美子えみこ氏が逝去。79歳。自己確立、自他共樂の教えを生涯貫徹し、少林寺拳法の発展にその人生の全てを懸けた。今号では、開祖夫人・宗恵美子氏の生涯を回顧し、またその偉業を顕彰するとともに、私たちに何を教えてくれたのかを考えたい。

宗道臣と恵美子との出会い

原田恵美子(後の宗恵美子)は、1933(昭和8)年9月9日、愛媛県今治市いまばりに生を受けた。幼少のころ西条市に疎開している。恵美子の父・国彦は損得なしで人づきあいをする人であり、また家のこともきめ細かく丁寧に行う性格であったようだ。どちらかという父の影響を強く受けた恵美子は、根が真面目で優しく清楚せいそ。凛々りりしい少女であった。また父方の母親の介護も経験しているが、「おばあちゃんからいろいろ教わった。いい経験ができた」と生前娘の由貴ゆうき(現・師家しけ)に語っている。

そんな恵美子の人生を大きく変える事件が起きたのは18歳のとき。西条駅で過って列車とプラットホーム



1957年1月、本部道院での挙式(道臣45歳、恵美子23歳)

文／飯野貴嗣

の間の線路に落ち、動き出した列車とホームの間に挟まれ、骨折、内臓破裂。生死をさまよう重症を負った。幸い一命は取り留めたものの、元の身体には戻らないだろうと医師にも見離されてしまった。恵美子の状況に弟の公臣は、当時入門していた西条道院の近藤道文・元道院長に相談する。近藤は「少林寺拳法の整法なら」という希望を宗道臣（以下、開祖）に託し、開祖もそれを受けたことが二人の最初の出会であった。以来

数回にわたって整法が施され、見事に回復していく。恵美子にとって開祖は命の恩人となった。

「ミス西条」でもあった恵美子だが、この大事故を境に、結婚も無理、出産も無理と周りから言われ、本人も半ば諦めていた。しかし、やがて開祖は、施術を受けに来る恵美子の物腰や性格、その濃やかな気配りに次第に惹かれるようになる。一方、恵美子も開祖の人間的な魅力に惹かれ、「この人になら付いていける。自分の

助けてもらった半生をこの人に捧げたい」と決意したという。

57年1月20日、開祖と恵美子は本部道院において結婚式を挙げた。現師家の由貴が誕生したのはその年の11月であった。

与える喜びと 与えられる喜び

恵美子夫人の生活は一変した。自宅には常に内弟子たちが寝泊まりを

しているし、ほぼ毎日のように訪れる道院長や来客の接待もある。夫人は「開祖からよく、『来られる道院長の好みをもうちょっと知って、温かく接しなさい』と言われたものです。また時に人目をはばからず叱られたこともありました。でも喧嘩もせず幸せに過ごすことができました」と語っている。

しかし夫人の開祖に対する献身は、身体を治してもらった恩人だからではない。それは夫人のこれからの半生を生きる決意だったものであり、開祖と夫人との生活は、互いに与え与えられることを繰り返して高められた理想的な愛情関係が根本にあったのだ。

料理には多少の自信を持っていた夫人も、開祖の口に合わせるのに半年を要したという。しかし、それを夫人はこう振り返っている。

「外で食事をするよりも、家族揃って自分の好きなものを食べられることの喜びを大切にしてくれました。育った生活環境が違う者の組み合わせである夫婦が、互いを理解し合い、協力してこそ幸福な人生が歩めるのだと思います。相手のために何をしてあげようか、どうしたら喜んでもらえるだろうか、何気ないごく当たり



1980年正月自宅にて
上の娘との写真と比べて、下の夫人との写真では開祖が
乗り出しているのが面白い。



1960 年ごろ自宅2階にて

り前のことをして、相手が喜んでくれ、分かってくれる、それがまた自分の喜びとなって返ってくる。その二重の喜びが分かちまいました」
与える喜びと与えられる喜び——
この関係こそ最高の幸せではないだろうか。

空気のような存在

開祖は、「生きている間は死にはせん」と言いながらも、「いつ死ぬか分からんから悔いのない生き方をしたい。元気なうちにしておきたいこと、言っておきたいことがいっぱいある。死ぬまで頑張るぞ」と、組織の率先陣頭に立つて指揮をした。

そのような開祖の生き方を見て、夫人は、「こんな素晴らしいお仕事の手助けができればと私なりに考え、まず主人に遅れないよう付いていこう、お仕事の邪魔にならないようにしよう、少しでもお仕事のしやすいようにしてあげよう、私にできることはそれだけしかないと心に決めて付いてまいりました」と述べている。

宗由貴師家は「開祖の见えないところ、手の届かないところを、母は補っていたのだと思います。聞いて、言われて何かをするのではなくて、

察して何かをする、そんな人でした。また私が師家に就任してからも、私のできないところや気づかないところを、常に助けてくれました」と感謝の気持ちを表す。

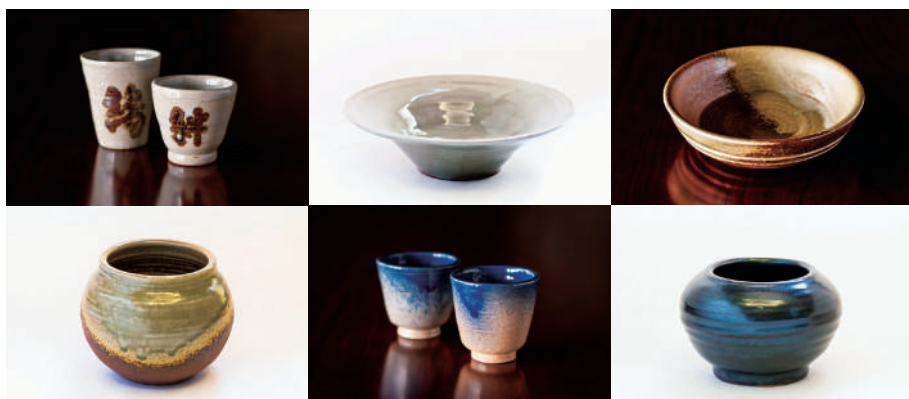
夫人は開祖から「お前は空気のような奴だ。あつて邪魔にならず、なくては困る存在だ」とよく言われたそう。目立たず、控えめ。それでいて、なくてはならない存在。これが夫人なりの一貫した生き方だったのだろう。

開祖の教えを説き続け

夫人は開祖亡きあとも、少林寺拳法グループ発展のために尽力された。2007年に少林寺拳法連盟監事を退任後も、常に組織の先行きを案じ、本山・本部の職員たちに開祖の教えを説き続けた。「しっかりした自分を持たないと、他人のお世話をすることができない」と。

息を引き取る最期まで、身を清潔にし、心を整えられていた恵美子夫人。13年4月8日、その尊き人生を全うした。

開祖夫人の生き方は私たちに何を教えてくれたのだろうか——。この質問には「行動」で答えるしかない。



恵美子夫人が一つ一つ真心を込めて作った数々の陶芸作品。(生前、足を負傷し入院した際に、主治医である内海氏からリハビリ用にと誘われて始めたのがきっかけ)

・開祖夫人 宗恵美子の言葉・

「自分さえよかったらいいというのは、これは何にも通じないですよ。自分さえよかったんでは成り立たないんです。開祖の教えは昔も、今も、これから必要なんです」

「長い結婚生活の中で本当の愛情とは求めるものではなく、与えるものであるということを知りました」

「今後は開祖の偉業を守るだけでなく、ますます発展させていかねばなりません。偉大な創始者であっただけに、あとは門徒一丸となって力を合わせ、このすばらしい教えを絶やすことなく、前進を続けていかねばなりません」

「ただただ感謝の気持ちでいっぱいです」



宗 恵美子

1933(昭和8)年9月9日生まれ。

64年4月1日～2000年3月31日、金剛禅総本山少林寺責任役員。

68年1月9日～2000年3月31日、準学校法人禅林学園理事(学校法人設立と同時に就任)。

92年1月10日～2007年11月4日、財団法人少林寺拳法連盟監事(財団設立と同時に就任)。

開祖夫人告別式

開祖夫人宗恵美子様がかねてより病氣療養中のところ、4月8日午後3時30分に永眠した。4月11日午後6時から行われた通夜式には約300人が訪れ、また翌12日午後0時30分から行われた告別式には約600人の弔問客があった。式は、浦田武尚代表が導師を務める中、しめやかに執り行われた。



弔辞を読む内海武彦・前ウツミ整形外科医院院長
(公私にわたり夫人との親睦が深く、夫人を陶芸に誘ったのも内海氏であった)



弔問客の献香



出棺



最後のお別れ

幸福運動についての一考

数年前の7月、病院など通ったことのない妻が、数日前より体調を崩し、その朝、目の前で倒れました。救急車を手配し搬送されましたが、すぐに帰ってくるものと思っていました。しかし現実はそのから6か月の入院となりました。最初の40日は集中治療室で生死をさまよい、私もその間は、その前の待合ソファで寝起きを共にしました。

今までの生活が一変し、選択の余地などなく、妻の命と向き合う日々となったわけですから。

ここで、自らが思い知らされたことは、仕事で毎日遅く帰り、道院修煉日は定時退社で、やはり帰宅は遅く、休日は、武専や県連盟(当時事務局)のことではほとんど自宅には不在だったわけですが、この全てが虚無のように感じられたことでした。

幸福運動。これは誰のためにやっているのでしょうか。常日頃、自己確立と自他共榮、そして、挫けない強さを養うことを指導している自分自身が「今ここ」をどう乗り越えるかを試されていると強く感じました。そして、判断力、対処しなければならぬことが次々

にやってきました。

病床の妻の前では無力である私は、今までやってきたことの自分への自問自答を繰り返しながら「負けるな、負けないぞ」と言い聞かせました。

我々は、「人づくり」、それを自らに重ねて、少林寺拳法という道楽(昔はよく耳にした表現です)に人生を懸けています。よって、このために仕事を一所懸命し、家庭も大事に考えてはいますが、ロマンと称し、家族をないがしろにしていることも多々あります。私の兄弟子は、息子さんが生まれるとき、修煉日だったので参座し、その後、病院へ……。今は反省しきりです。

自分がロマンとして行っているこのことも、家族をないがしろにして、省みず、家庭のことは一切妻任せというような道院長は、基本的に何か違うような気がします。

偉そうなことを書いていますが、私も結局は同類、妻の病気を目の当たりにして、初めて真剣に向き合えた気がしています。

幸福運動とは何か、これは我々指導者が心に刻み、いつも自らに問いかけることです。

自らの周りも幸せにできない人間が、多くの人を幸福になどということ自体、ばかげているとつくづく思い知らされました。

我々は、まず自らの身近なところから幸福運動を広げることが第一なのかもしれない。

さて、毎日、病院で自問自答していたとき、前述の兄弟子が電話をくれました。「大変でしょう。先生のことだから、大丈夫だと思うけど、自分の納得のために、顔を見に行くとわ」と言われて病院まで来てくれました。

そして、夏の暑い日でしたが、よく冷えた水饅頭みずまんじゅうを持ってきていただき、「何がいいか、一所懸命考えて、先生が好きな水饅頭を持ってきた。顔見て安心したから帰るわ。無理しなや」と言われ、すぐに帰られました。

この水饅頭の味、ありがたさ、これによって得た力、言葉では表せません。

ここから伝わる優しさや思いは、頑張れる糧でした。人の心の温かさ(質)を心から味わたったのです。思いは深く、そして、さりげない、こんな優しさが人に力を与えるような気がします。



道



生きる

私にとって「道」とは、生まれてから死ぬまでの道のりのことであり、死ぬまでどう生きるかが道である。いつか自分が死ぬとき、この世に生まれてよかったと思える人生を歩んでいくこと。その道しるべが金剛禅の教えであり、生きる、生き抜くことが、金剛禅の教えの第一であると思う。

私は双子として生まれ育ってきたが、やはり兄は兄であり、何か行動を起こすのは兄が先であった。兄は私より先に三重県の四日市道院に入門した。それを知り、遅れをとるまいと、1967(昭和42)年5月、高校2年のときに四日市道院に入門したのが少林寺拳法との出会いであった。

その後、大学進学のため二人で京都へ行き、北岡隆四日市道院道院長(当時)の勧めもあり京都別院に転籍して練習に励み、本格的に少林寺拳法に目覚めた。当時、別院長であった故・原田公臣先生の厳しい指導の下、よき先生と先輩に恵まれたおかげで、兄は会津猪苗代道院、私は鹿児島川辺道院の道院長を務め、今日に至っている。

大学卒業後、社会人として働いていたが、

37歳のとき、急性心筋梗塞を発症し、一時は危篤状態に陥った。しかし、現代医療のおかげで再び社会人として社会生活を営めるところまで回復できた。だが、今日に至るまでに28回の入院を繰り返している。現在は心臓に5本のステントを入れ、何とか生き延びている。ちなみに兄も私が発症してから数年後に開胸し、バイパス手術をしている。

私は何度も生身の心臓に触られる手術や検査を受けてきたが、それは、「生きたい、まだ生きていたい」という思いがあればこそ耐えられた。誰しもそうであると思う。

ある日、手術を終えて、ふと、「私は生かされている。ダーマによって生かされている。だから、まだこの世で社会の役に立ち、やり残したことをやり遂げろ」という意味で生かされているのだ」と思った。それから私は命のありがたさをひしひしと感じ、命をくれたダーマと両親、愛をくれた家族へ感謝し、生かされて生きていることに感謝している。

手術後、病室で過ごしたときが、自分の命のあり方について深く考えた時期であった。そのとき、頭に浮かんだのは、道訓の「人生

鹿児島川辺道院 道院長 田中輝義

れて世にある時、人道を尽すを貴ぶ」の一節であった。この道訓から、命の大切さや生かされている自分は人として何をすべきか、人として何ができるのかを考えた。まさに、今までの懺悔と、これからの人生のあり方を問う時期であった。

縁起の法則から過去を反省し、生かされてきた今までに感謝し、今を因として、将来のよき果を迎えるために、今を大切にしなければならぬ。そして何よりも今からが大事である。

人間は、無限の可能性を持つダーマの分霊であり、ダーマと父母から命を頂き、この世に生かされている存在である。私は62歳で、鍼灸、整骨院を営んでいる。今まで幾多の失敗を繰り返してきたが、今日まで、温かく見守ってくれた人々に心から感謝している。これからまだ生き抜いて、残された人生、仕事でも社会に貢献し、少林寺拳法を通じて金剛禅の布教を行い、社会に役立つ指導者を育成していきたい。それが私に課せられた歩むべき道であると思う。

だから生きる。

ダイジェスト



志を
つなく

か い てつ お
甲斐 哲夫 177期生
大導師正範士八段

開祖と初めてお会いしたときのいちばん最初の言葉が「続けろよ」でした。そのときの温かな手の感触、今も忘れることができません。

「北海道には鉄のカーテンが下りている」と言われ、地理的だけでなく精神的にも距離があった本山と北海道の間を縮めるべく尽力してきました。最初に言われた「続けろよ」を開祖の教えとして、これからも北海

開祖が与えてくれた強烈な光（教え）、
今度は自分が光を与える存在に

道の拳士に続けることの意味を伝えていきたいと思っています。

開祖の言葉は時代を超えて今も響き続けています。開祖が与えてくれた強烈な教えというか光を、北海道で生あるかぎり照らし続けていきたい。今度は自分が光を発する存在でありたいと願っています。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



◀1976年6月、家族と開祖を囲む。左は悦子夫人、開祖の膝の上は息子の貴之さん(現・千歳北陽スポーツ少年団部長)



▶同年同月、支笏湖^{しこつ}
でバーベキュー

ダイジェスト



道院長 vol.14
元気・素

あわ じ ちゅう ぶ
淡路 中 部道院
道院長 につ た ふく ね
新田 福音

可能性の種子を芽吹かせる
水や太陽のような存在でありたい

——道院長になろうと思ったきっかけは？

専門学校禅林学園には、金剛禅の教義を深めたいという思いで入学していました。その学生時代、道院長研修会に参加されていた先生から「あなたは卒業後、道院長になられるのですか?」と問われたことがきっかけでした。そういう道があるのだと思い立ち、その翌年11月、淡

路中部道院を設立しました。

信念を持って行動すれば賛同者が集まり道は開けるのだと実感しています。多くの人との出会いが人生を豊かにし、何気ないひと言が人生を変えます。誰もが持っている可能性の種子を芽吹かせる、水や太陽のよな存在でありたいと思っています。

※プロフィールなど、**金剛禪オフィシャルサイト**の全文もぜひご覧ください。

▼偶数月に設けている教義の日の様子



開祖忌・開祖夫人顕彰法要—— 開祖と開祖夫人への ご恩返し

5月11日、金剛禅総本山少林寺本堂にて、開祖忌法要ならびに開祖夫人宗恵美子様の顕彰法要が行われた。宗由貴師家をはじめ名誉委員、道院長ならびに法縁関係者ら約150人が参列し、浦田武尚導師のもと厳粛な



霧開気の中、導師献香、教典唱和、表白文奉読と進み、その後、参列者全員による献香が行われた。献香時には、開祖夫人の生前の音声（おぼえ）が流され、中には夫人の遺影に向かって語りかけるように声をかける姿も見られた。最後に浦田武尚代表は「各門信徒が開祖の志を自分のもの

とし、自己を確立していくことで充実した人生をつくる。このことがせめてもの開祖と開祖夫人に対してのご恩返しではないでしょうか」と参列者に呼びかけた。（黒田達也）

金剛禅への誓いを志 とし、前に進もう

5月16日、東京別院にて開祖忌法要が執り行われ、ご来賓や職員、東京大塚道院の拳士ら法縁関係者約40人が参列し、開祖の遺徳を偲んだ。冒頭には、開祖夫人宗恵美子様への哀悼の意を表し、参列者一同で黙祷が捧げられた。

導師である大澤隆東京別院長は法話において、「ここに門信徒が相集い法要が営まれ、法縁有志の横の繋がりを強くし、更にこの運動が継承発展することが、開祖の願いだと思います。金剛禅への誓いを自らの志とし、強い信念で前に進んでいきましょう」と呼びかけた。法要後には懇親会が行われ、参列者を代表して、矢島隆禪総代、松木長實名誉本山委員、藤田守名誉本山委員から、「開祖との思い出」をテーマに貴重なお話を聞かせていただき、傾聴

していた参列者もありし日の開祖に思いを馳せた。（小林博紀）
東京都・千葉県教区

活発な意見交換が された合同研修

5月19日、東京別院にて開祖忌法要ならびに東京都教区・千葉県教区による合同研修会が道院長を対象に、約45人の参加で行われました。

開祖忌法要に先立ち、開祖夫人宗恵美子様への哀悼の意を表し、参加者全員による黙祷が捧げられました。その後、古谷進千葉県教区長を導師として式は進み、今井健先生（本山委員・少法師）による法話と厳かな霧開気の中、開祖忌法要が行われました。午後は今井健先生を講師に迎え、①「少林寺拳法の修練」と「金剛禅の修行」の比較、②「三法人の設立趣旨と活動から見た独立性と共通性」について講義を頂きました。時折ユーモアを交えスライドを利用しながらの講義は非常に分かりやすく好評でした。また質疑応答には活発な意見が寄せられ、一つ一つ明快に回答される今井講師の言葉に、受講者は感銘を受けていました。（東京都教区事務局）

2013年度宗道臣デー活動報告

福井新田塚道院

4月29日、福井市小教区の各道院の方々と一緒に、足羽山の清掃奉仕活動を行いました。

桜も満開のこの時期は、景色もよく、皆笑顔で楽しそうにゴミやがれきなどを拾っていました。一人ではなく仲間と同じ思いで実施していること、また、恒例行事となっているため地区住民から理解され感謝されていることに対して、皆喜びを感じていました。この活動の輪を更に広げ、拳士以外にも影響を与え、社会に貢献する喜びや仲間との一体感を味わっていただけたらと思います。



るよう呼びかけていこうと考えています。（栄村薫）

高砂道院

5月18日、高砂市米田町自治会第一公会堂および周囲の清掃を行いました。今回は事前学習を行い宗道臣デーに臨みまし。1時間かけて会館内の雑巾がけと周囲の掃き掃除を行いました。途中、自治会の役員の方も来られて一緒に作業を行いました。自治会長さんもきれいななった会館内を見て大変喜んでくださいました。最後は道場に帰り皆で感想を発表し合い、自治会長さんからお礼として頂いたジュースをごちそうになりました。（大内信弥）



おめでとうございます

全日本緑十字銀賞を受賞

村上一名誉本山委員(前・中曽根道院道院長、大導師大範士八段)が、交通栄誉賞「全日本緑十字銀賞」を受賞されました。多年にわたり交通安全活動に尽力され、その顕著な功績が表彰されたものです。おめでとうございます。村上名誉本山委員の談「開祖の教えを守り、地域社会へ貢献してきたことが認められたのだと思います。これからますます真純単一な姿勢で実践していきます」。



僧階昇任者

権中導師

■2013年4月1日付

森 義昌(滝川道院)
北野 孝之(天童長岡道院)
芳賀 公彦(郡山東道院)
実原 史明(宇都宮北部道院)
海沼 実(東京羽田道院)
石井 明仁(東京大塚道院)
高橋 裕美(川崎西道院)

綾邊 和彦(川崎東道院)
伊藤 重充(伊那道院)
島 稔(藤枝道院)
大橋 秀男(藤枝道院)
千葉 治(藤枝道院)
渡邊 剛寿(藤枝北高校)
竹内 章浩(名古屋一社道院)
河村 宏(京都北醍醐道院)

お知らせ vol.28、3ページ「2013年度組織図」に追加があります。4月18日付けで監事：見崎俊次が就任しました。

本山行事

7月 6日(土)～7日(日) 講習会1次
7日(日) 僧階補任講習(大導師・中導師)
19日(金)～21日(日) 道院長資格認定研修会
28日(日) 帰山

2013年度講習会のご案内

今年度の講習会は、金剛禅が主催する行事として、大きくリニューアルします。1次では次世代の指導者育成を目的に、2次では道院幹部を対象に道院における人づくりのあり方について講習します。また特別講習会では、儀式・行事を通じて、皆様の道院活動を活発にしていくための講習会を予定しています。技術講習も単に技術を高めるのではなく、宗門の行としての技術のあり方と、その具体例を学びます。受講につきましては、少林寺拳法連盟の会員の方も受講することができます。金剛禅を皆様の実生活や将来に役立てられるよう、多くの方のご受講をお待ちしております。お申し込みはマイページの「行事受講申込手続」より行ってください。

講習会1次＜次世代指導者育成講習会＞

テーマ：「日々に活かそう、金剛禅」

日時：7月6日(土)8:45～18:00
7日(日)8:45～15:00

場所：本山

受講費：10,500円(税込み、昼食費二日分を含む)

対象：16歳以上、初段以上三段以下の拳士で指導者を狙っている方

講習会2次＜幹部講習会＞

テーマ：

「道院における人づくりの可能性」
日時：9月21日(土)8:45～18:00
22日(日)8:45～15:00

※締め切り 9月8日(日)

場所：本山

受講費：10,500円(税込み、昼食費二日分を含む)

対象：四段以上の幹部拳士、副道院長、道院長

特別講習会＜行事参加型講習会＞

テーマ：

「道院行事を五感で感じよう」

日時：10月5日(土)8:45～18:00
6日(日)8:45～15:00

※締め切り 9月22日(日)

場所：本山

受講費：10,500円(税込み、昼食費二日分を含む)

対象：16歳以上、初段以上の拳士

お布施

▷愛知県教区	30,000円	▷仙台南道院(設立30周年)		▷東京大塚道院	100,000円	▷東京飛鳥道院 村上喜久(開祖忌法要)	10,000円
▷大分県教区	30,000円		50,000円	▷東京都教区(開祖忌法要)			
▷宮城県教区	32,800円	▷川西中部道院 丸野俊一	10,000円		10,000円	▷鷺沼道院 松木長實(東京別院開祖忌法要)	10,000円

訃報

やまぐち ひろまさ

山口 博正 名古屋緑道院道院長、291期生、大導師正範士七段
2013年3月9日逝去、満68歳

たけむら まさゆき

竹村 昌之 大和番条道院道院長、303期生、中導師正範士七段
2013年3月26日逝去、満82歳

はやし たかし

林 隆司 綾瀬深谷道院道院長、148期生、大導師正範士七段
2013年4月4日逝去、満68歳

すずき ひろし

鈴木 弘 米沢道院元道院長、203期生、権少法師大範士八段
2013年4月15日逝去、満79歳

編集後記▶文月、陰暦7月の別名、書道の上達を願う七夕の行事にちなんで「^{ふみひろげつき}文^{ふみ} 披^{ひらきつき}月」が変化した。▶この月から暑気に入るが暑さに負けない心と身体づくりを支えるのは己の信念からである。▶ダーマに依って与えられた魂を命あるかぎり世のために磨き続ける行を怠ってはならない。書道だけではなく自らの道に対し上達を願う月にしたいものである。▶開祖の志、開祖夫人の支えを無にすることなく「進」で行こう。(お)

表紙▶河合修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。

中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>
ほぼ毎日、更新しています。2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん | vol. 29
金剛禅総本山少林寺広報誌 2013 文月・葉月

2013年7月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：浦田武尚

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：大澤 隆

企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本：(株)ブル・ドック

広報誌『あ・うん』追加発送について ◆◆◆◆◆

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき10部ずつ(一般財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail : fukyoka@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

東京大崎道院 平野 光代

きっかけは1本の電話

入門のきっかけは、1本の電話でした。当時、幼稚園年少の息子はとても泣き虫で、親としては、イジメられっ子にならないでほしいと心配しておりました。そこで、武道を身に付け、心も体も強い子に育ってほしいという願いから少林寺拳法の門を叩かせていただきました。右も左も分からない私は、東京センター(現・東京別院)に電話をし、息子の話をしたうえで「どちらかご紹介いただけますか?」とお願いしました。対応してくださった方は、とても親切な方で、日本武道館の道場でご指導されており、「是非、武道館に入れていただけませんか?」とお願いしましたが、「大人だけなんですよ」とのお答えでした。そのとき、

ご紹介いただいたのが東京大崎道院の沖山聖徳道院長でした。息子のために探した始めた少林寺拳法でしたが、4歳上の姉も一緒に入門。それから1年半後、私も入門させていただきました。親子共通の趣味は、なかなかよいもの。鏡開きや合宿などの行事には、隠れ拳士のおばあちゃんも加わります。これからも家族みんな楽しんで修行していきたいと思います。あのとき対応してくださった先生に、お会いしたことはありませんが、今でも、時々そのときのやり取りを思い出します。13年も前のこと、覚えておられるはずもないでしょうが、この場をお借りしてお礼を申し上げます。その節は、ありがとうございました。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

Ryuka Ken, Okuri gote



宗門の**行**としての少林寺拳法

りゅう かけん おくり ご て
龍 華拳 送 小手

かぎ て しゅほう あて み しょう しきゅう かけて さばきて まきぬき
鉤手手法から当身の後、相手の左手・小指丘に掛手する。捌手は巻拔の要領で相
手の手首に絡め、ぼ しはいきゅう
拇指背丘を攻めつつ、相手の肩を送るようにすることで、伏身
にすることができる。手首の極めと肩の送りの連動が重要である。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：永安正樹 准範士六段 攻者：富田雅志 大拳士五段



SHORINJIKEMPO